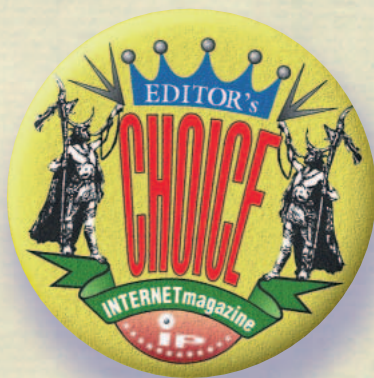




今月の編集部オススメのソフト&ハード

Editor's Choice

今月はサウンドボードだけでMIDIの音質を楽しむ「MIDPLUG」、大幅に機能拡張したインターネットエクスプローラのバージョン3.0、キヤノンとコダックのデジタルカメラ、そしてホームページのデータを自動的にダウンロードする自動巡回ソフト「ウェブワッカー」だ。また、今月から各製品の読者への「おすすめ度」を5段階で評価することにした。性能や価格、機能のバランスがとれている製品ほど高い評価となっている。製品を購入したりダウンロードしたりするときの目安としてほしい。

今月のラインナップ

ハードウェアなしでMIDIデータを再生するネットスケーププラグイン

MIDPLUG

開発元：ヤマハ株式会社



大幅に機能アップしたマイクロソフト社製WWWブラウザー

インターネットエクスプローラ3.0日本語版ベータ1

開発元：マイクロソフト株式会社



ついに定価で40,000円を切ったデジタルカメラ

DC-20

発売元：日本コダック株式会社



高スペックで普及価格を実現した多機能デジタルカメラ

Power Shot 600

発売元：キヤノン販売株式会社



見たいページを自動的にダウンロードしてくれる自動巡回ツール

WebWhacker

発売元：イー・アイ・ソフト株式会社



付録のCD-ROMに収録

このコーナーの見方



市販の
ハードウェア製品



市販の
ソフトウェア製品



シェアウェアの
ソフトウェア



フリーウェアの
ソフトウェア



ウィンドウズ95用



ウィンドウズ3.1用



ウィンドウズNT用



OS/2用



マッキントッシュ用



UNIX用



動作環境



発売元



電話番号



価格



関連情報



バージョン



作者/開発元



入手先



付属品



ファイルサイズ/
最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。



ハードウェアなしでMIDIデータを再生するネットスケーププラグイン

ミッドプラグ

MIDPLUG

ここがスゴイ!

★★★★★

- ① MIDIデータの再生にMIDI音源を必要としない
- ② ネットスケーププラグインで扱いが簡単
- ③ テンポやピッチを自由に変更できる

楽器などでおなじみのヤマハからネットスケープ用のプラグインソフトが登場した。音楽用のデータファイルであるMIDIを再生するもので、最大の特長は「ソフトウェアシンセサイザー」が搭載されていること。MIDIデータを再生するには通常はMIDI用の音源機器が必要だが、ソフトウェアシンセサイザーはその代わりをしてくれる。

つまりMIDPLUGを入れれば、ハードウェアになら拡張や追加をすることもなく、音質の良いMIDIデータが再生できてしまうというすぐれものなのだ。

▶ もうMIDI音源機器はいらない?

MIDIデータとは音楽を記録するデータフォーマットの1つで、最近の通信カラオケなどでも使われているもの。データファイルが非常に小さく、そのうえとてもリアルな音が再現できるというメリットがある。しかし、その反面、期待どおりの高い品質で再生するにはMIDI音源を搭載したハードウェアが原則的に必要という制約もある。今のほとんどのパソコンには音楽や音声を再生するサウンドカード（サウンドブラスターなど）が搭載されているものの、それらはPCM音源とFM音源と呼ばれる機能のみで、MIDI音源の機能を持たないものが多い。FM音源でMIDI音源をエミュレート（疑似的に再現すること）してデータを再生することもできるが、それでは貧弱な音質でしか再生できない。どうしても高品質なMIDIの音楽データを聞きたい場合にはさらにハードウェアを追加する必要があるというのが、今の一般的な状況といえる。

ご存じのとおりネットスケープのプラグインソフトの種類は山ほどあり、その中には当然MIDIデータの再生ソフトも何種類か含まれている。だから「MIDIデータを再生するプラグイン」というだけでは珍しくないし、それ自身だけでは高品質なデータ再生にはハードウェアが必要だということにも変わりがない。だが、このMIDPLUGは従来のそれらとは一線を画す画期的な違いがある。それは「ソフトウェアシンセサイザー」を搭載していることだ。これによってMIDI音源がなくても高品質な音楽データが楽しめる。

▶ ソフトウェアシンセサイザーを搭載

ソフトウェアシンセサイザーとは、ほとんどのパソコンが持っているPCM音源を利用し、ソフトウェアでMIDI音源をエミュレートしてしまう技術のこと。つまり、MIDPLUGを使うことにより、今手持ちのパソコン

のハードウェアの環境だけでMIDI音源を使った場合と同等の品質のデータ再生が可能になってしまうわけだ。また、ソフトウェアなので入れ換えていくことで品質を高めたり、さらに機能を拡張していくこともできる。デメリットは、MIDPLUGの動作環境が示しているようにパソコン側に高いCPU処理能力を要求し、ウィンドウズマシンならばペンティアム、マッキントッシュならばパワーPCという高速なCPUを必要としていることだ。原理的にいたしかたのないところだが、昨今のパソコン側の急激な進歩もあり、普及機でもこうしたCPUが当たり前に搭載されている時代である。もはやデメリットの面は小さくなっていると言える。

▶ インストールや操作が簡単

MIDPLUGは他のプラグインと同様に簡単な操作でインストールができ、あとはネットスケープでMIDIデータを再生してみるだけだ。同社のサーバーにもサンプルデータが用意され、MIDIデータを用意したページへのリンクも多数あるので、ぜひ試してほしい。

MIDIデータを読み込むと、オーディオ機器にあるような再生ボタンやストップボタンが画面に出るので、後は好きにボタンを押せばいい。MIDIデータのメリットとして、テンポやピッチを好きに変更することができ、これもボタンで操作が可能だ。インターネット上にあるMIDIデータに限らず、自分のマシンに持っているローカルのデータも手軽に再生できる。ネットスケープから再生したいファイルを開くか、ファイルをマウスでつかんでネットスケープの上で落とすだけでもいい。とにかく手軽だ。すでにMIDI音源を持っている人は、そちらを利用することも可能。

ヤマハでは、いまのところMIDIでも基本的な「GM規格」をベースにしたものにしか対応していないが、将来的に同社が提唱する「XG規格」というさらに高機能な規格にも対応するという。

ただ、できることならばネットスケープのプラグインという形よりも、より汎用的なシステムドライバーの形で提供して欲しかった。その方がどんなソフトからも利用できるようになるので便利になるはずだということである。この点はぜひ検討してほしいところだ。

(石橋文健)



ヤマハ株式会社



① プレーヤーはインラインで表示される。曲のピッチや高低が調整できる。



② ショックウェーブと組み合わせることもできる。曲データは小さいのでダウンロードも速い。

MIDPLUG



1.0b3J



ヤマハ株式会社



midplug@cbx.emi.yamaha.co.jp



ベータテスト中につき無料



1.09Mバイト/6分36秒

(ウィンドウズ3.1版)

1.13Mバイト/6分52秒

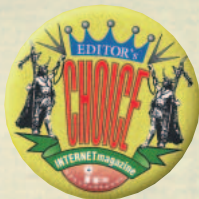
(ウィンドウズ95版)

1.06Mバイト/6分28秒

(マッキントッシュ版)



<http://www.yamaha.co.jp/xg/S/S.html>



マイクロソフト株式会社



大幅に機能アップしたマイクロソフト社製WWWブラウザ

インターネットエクスプローラ3.0 日本語版ベータ1

ここがスゴイ!

★★★★

- ① ネットスケープと同等の機能を持ち、マイクロソフト社の製品との親和性が高い
- ② 無料でダウンロードできる
- ③ キーボードオペレーションができる

マイクロソフトから「インターネットエクスプローラ」日本語版の新しいバージョンが公開された。同社のインターネット戦略の要の1つであるActiveXテクノロジーに対応した初めてのWWWブラウザだ。ActiveX対応のほかにも画面を分割してドキュメントをブラウズできるフレームの機能などを盛り込み、より高機能になり使いやすくなった。まだベータ1という評価用のものだが、現在同社のWWWサーバーから誰でも自由にダウンロードできるほか、本誌のCD-ROMにも収録したので試してみしてほしい。動作環境は今のところウィンドウズ95のみで、ウィンドウズNT用は後日リリースされる予定になっている。

▶ ActiveXテクノロジー対応による機能拡張

ActiveXコントロール

ActiveXコントロールはさまざまな機能拡張を行うパーツのようなものだと考えればよい。ActiveXコントロールを使用しているページを参照した場合に、該当するコントロールがクライアント側に存在しないときにはダウンロードするかどうかを聞いてくるので、OKボタンを押せば組み込まれる。必要なときに必要なだけ自動的にクライアント側に取り込まれるかたちになる。この場合のセキュリティについてはデジタル署名と呼ぶ機能によって確保される。

同社のページにはActiveX GalleryというコーナーでさまざまなActiveXコントロールのデモが用意されており、アニメーションするボタンや自動的にチャートを描くコントロールのデモを体験することができる。ほかにプレゼンテーションソフトのマイクロソフト・パワーポイントのアニメーションデータを再生する「パワーポイントアニメーションプレイヤー」も別に配布されており、ベータ1のパッケージの中には標準でリアルオーディオやマーキー（ドキュメントの部分スクロール）のActiveXコントロールが含まれている。

また、ネットスケープのプラグインソフトとして有名なマルチメディアデータを再生するショックウェーブや動画データをリアルタイムに再生する「VDOLive」などについても、ActiveXコントロール化への開発が進んでおり、ショックウェーブのActiveXコントロールについては将来的にはOSに標準搭載するというアナウンスもされている。

ActiveXスクリプト

ネットスケープには「JavaScript」というスクリプト言語が搭載されているが、インターネットエクスプローラ3.0ではActiveXスクリプトにより、さまざまなスクリプト言語に対応する。標準では「JavaScript」と「VisualBasicScript (VBScript)」に対応している。VBScriptはマイクロソフトの「VisualBasic (VB)」や「VisualBasic for Applications (VBA)」との互換性があり、HTMLの中で記述することでさまざまなアプリケーションやActiveXコントロール、Javaアプレットなどと連動した動作が可能になる。

同社のデモページではJavaScriptとVBScriptを使い、ページの中で電卓を実行させるデモが用意されている。

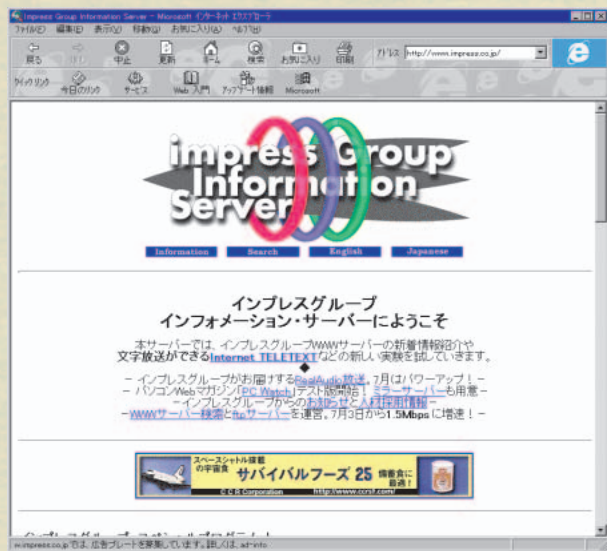
▶ ActiveXテクノロジーに対応

先にも触れたとおり、ActiveXテクノロジーはマイクロソフトのインターネット戦略において重要な地位を占める新しい技術だ。そして、インターネットエクスプローラ3.0はそのActiveXのクライアントプラットフォームの中核となる存在である。ActiveXは従来からOLE技術と呼ばれている機能をネット

ワーク用に応用した新しい技術で、さまざまなアプリケーションやコンポーネントと相互に融合した動作を可能とし、ブラウザの機能拡張などがより簡単に行えるようになるもの。

ベータ1では対応していないが、次のベータ2ではJava言語にも対応し、高速に実行させるためのJust-In-Timeコンパイラにも対応するという（すでに追加モジュールの形でベータ1用のJava対応キットが配布されている。URLは<http://www.microsoft.com/ie/java/javaidl.htm>）。

では、そのインターネットエクスプローラ3.0の何が新しくなっているのか主なものを紹介することにしよう。



① インターネットエクスプローラ3.0日本語版の画面。バージョン2.0からデザインが大幅に変わった。

ActiveXドキュメント

ActiveXドキュメントはHTML以外のデータが読み込まれた場合でも自動的に対応するアプリケーションを呼び出して表示・編集できるようにしてしまう機能である。呼び出すアプリケーションがActiveXに対応したものであれば、インターネットエクスプローラのウィンドウの中でシームレスに動作する。たとえばマイクロソフト・ワード（以降はワードと表記）のドキュメントを読み込むと、自動的にインターネットエクスプローラの中にワードのツールバーやメニューが表示され、メインウィンドウにはワードのドキュメントが表示されて編集が可能になる。このとき、インターネットエクスプローラはフレームだけになる。

もし、ワードがインストールされている環境であれば、一度ワードのドキュメントデータをインターネットエクスプローラに読み込んでみると、すぐにその効果が確認できる。

▶ HTMLの拡張 フレームに対応

ネットスケープではバージョン2.0からフレーム機能に対応していることから、すでに世界中のあちこちのページでこのフレームが利用するためのHTMLタグが使用されている。フレームとは1つのページを分割してそれぞれ独立した表示・閲覧ができる機能のこと。インターネットエクスプローラも3.0でフレームに対応したことで、ようやくほぼどのページでも問題なく表示ができるようになった。そして、フレームについては枠線やスクロールバーを消すためのタグにも対応し、さらにフローティングフレームという新しいタイプのものに対応している。フローティングフレームとは従来の単純な画面分割とは違い、ページの中に完全に穴のあいた窓のようなフレームのことだ。

▶ ユーザーインターフェイスの改良 ツールバーの改良

ツールバーについては、まずボタンがそれぞれ大きくなり扱いやすくなったほか、URLを入力・表示するアドレスバー、各ボタンにリンクが埋め込まれているクイックリンクボタンがマウスによって配置を自由に変更できる。また、ソフトウェアによってもツールバーの背景を変えたり、クイックリンクボタンのリンク先を変更したりすることができる。

キーボードオペレーション

マウスを使わないキーボードだけのオペレーションが可能になっている。操作感覚はウィンドウズのヘルプファイルのキーボード操作とほとんど同じ。各リン

クやボタンの指定は「TAB」キーによって行い、クイックマップでさえTABキーで操作が可能（ただし、クライアントサイドイメージマップの場合のみ）。

画面のスムーズスクロール

「PageUp」キーと「PageDown」キーやスクロールバーをクリックした場合の画面スクロールが滑らかな動作になっている。従来はスクロールも次の情報への単純な切り替えだったが、3.0からは実際に画面の情報が巻紙を巻くように流れる動作をする。これはインターネットエクスプローラだけでなく、ウィンドウズ95のシェルであるエクスプローラにも自動的に適用される。

▶ その他

レーティング機能

「レーティング」機能とはアクセス制限のこと。アメリカでも問題になっている性や暴力といった情報のページのロックを実現するもの。保護者や両親を対象に、未成年者が利用する場合のロックを想定している。設定したパスワードによってのみ、この機能のオン、オフや設定変更を行うことができる。「PICS」規格に準拠し、HTMLの中にレーティング情報が含まれている場合や、別の機関による格付けされている情報を利用して選別を行う。また、これらのレーティング情報のないページへのアクセスには全てパスワードロックをかけることもできる。

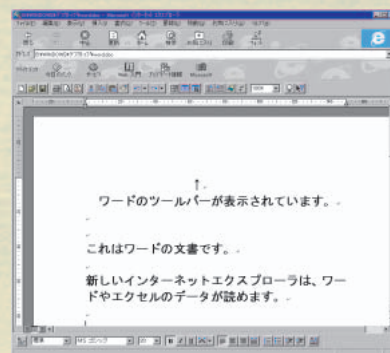
ネットスケープのブックマークの取り込み

インストール時、その環境にネットスケープのブックマークのファイルがある場合は自動的に「お気に入り」フォルダに変換してくれる。

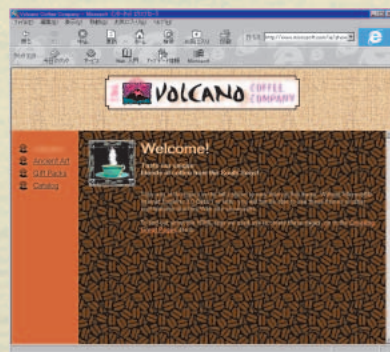
▶ 過熱する一方のWWWブラウザ環境の開発競争

インターネットエクスプローラは早くも4.0の予定がアナウンスされている。次はOSとより密接な関係になり、シェルであるエクスプローラとも統合されるといふ。インターネットを利用できる環境は進化する一方で今後も目が離せないところだ。

なお、原稿執筆時点ではライバルのネットスケープも3.0ベータ5をリリースし、フレーム機能の拡張を行ったり、ウィンドウズ95、ウィンドウズNTの環境に限られるがJavaアプレットを高速実行する「Just-In-Timeコンパイラ」を搭載するなど、相変わらずの「デッドヒート」を演じている。インターネットエクスプローラ3.0もベータ2（英語版）が本誌が発行されている頃には公開されているはずだ。（石橋文健）



①ワードのデータが読み込める。ワードがインストールされているば、編集もインターネットエクスプローラ上で行える。



②ボーダレスフレームを使ったホームページ。従来より多彩な表現が可能となった。

インターネットエクスプローラ



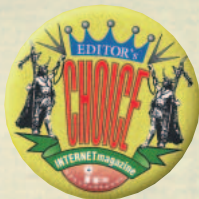
3.0日本語版（ベータ1）



マイクロソフト株式会社



<http://www.microsoft.co.jp/internet/ie/ie.htm>



39,800円



日本コダック株式会社



ついに定価で40,000円を切ったデジタルカメラ

ディーシー

DC-20

ここがスゴイ!

★★

- ① 定価39,800円でとにかく低価格
- ② コンパクトな筐体



① コンパクトな筐体。

シンプルでデジタルスチルカメラDC20は、大きさや操作性が「レンズ付きフィルム(いわゆる使い捨てカメラ)」と同じである。電源、消去、シャッターの3つのボタンとファインダー横の電源、使用中、メモリーの3つのインジケータしかない。小型ボディだが右手の親指が当たる位置にくぼみを設け、持ちやすくしているところに、レンズ付きフィルムで鍛えたノウハウが活かされている。

▶ 本体でできる操作は撮影と消去だけ

焦点距離は6.5mm、絞りはf/4~f/11自動、シャッター速度1/30~1/4000秒、フォーカス0.5m~無限遠と基本はしっかりとしている。映像は24ビットカラー、サイズと撮影枚数が標準モードで493×373を8枚、スナップモードで320×240を16枚撮影できる。つまり、スナップモードでも、ヒット商品のカシオQV-10とおなじ解像度があるわけだ。このスペックでデジタルカメラ最安値の39,800円という低価格を実現している。

本体単独でできる操作は、撮影と、全画像の消去だけで、解像度の設定モードは電源投入時のインジケータの明滅パターンで知ることができる。また、残り撮影数が3枚以下になるとメモリーランプが点滅し、点滅回数が枚数を表す。駆動電源が3Vリチウム電池のみだが、90秒無操作でオートパワーオフになる。カメラ用の電池なので700円前後するが、コンビニエンスストアでも入手できる。それでも、パソコンとの接続時を考えるとACアダプターが欲しい。

▶ 解像度の変更が本体だけではできない

パソコンとの接続は、付属のシリアルケーブルで行い、本体側面に備わったステレオミニジャックにシリアルケーブルでつなぐと、ほとんどの操作をソフト側で行うことができる。付属の「フォトエンハンサー“おもしろ版”」では、通信ポート、速度、解像度の設定、バッテリーのモニター、画像データの取り込み、加工、保存ができる。まず、解像度の変更はパソコンと接続して設定しないとできない。解像度の設定は撮影途中で変更ができず、変更時に記録されている画像は消去されてしまう。本体だけでは変更できず、異なる解像度で混在できないとなると、撮影には常にパソコンを持ち歩かねばならない。

▶ 添付ソフトは豊富

パソコンで画像を読み込むと、すぐに画像の補正ができる。スマートピクセル修正では晴天、曇天、明るい日

陰、暗い日陰、室内、フラッシュ撮影(DC20にはフラッシュはないが)、蛍光灯などの光源に関わる補正、モアレパターンの除去、退色の補正といったパターン化された画像修正が簡単に行える。また、フォーカス、露出、明るさ・コントラスト、色合いの修正には、9つの修正後サンプルから好みの画像を選びながら対話的に設定できるブラウザー修正ができる。スマートピクセル修正は面倒な補正を簡略化し、ブラウザー修正は補正状況を確認しながら作業を進めていくことができ、非常にスマートで直感的なので初めての操作でもとまどわずにすむ。補正した画像は、TIFF、JPEG、BMP(ウィンドウズ版)、PICT・EPSF(マッキントッシュ版)の形式で保存される。このソフト、フォトエンハンサーは、「おもしろ版」とされている通り、取り込んだ画像を使ってカードやカレンダーを作成する機能も備わっている。そのほか、付属ソフトに画像をレタッチして遊ぶソフト「Kai's Power Goo」、撮影画像を構成したり音楽をつけたりしながらスライドショーを作成するソフト「Slides & Sound」が付属する。

試用レポート

▶ 撮影枚数は少ないがコンパクトさは評価

撮影枚数が少ないが、コンパクトさは評価できる。ファインダーの視野は35mmカメラ換算で47mmなので、標準レンズを使ったカメラに近い。シャッターを切ったときのボタンの感覚がグニヤとしており、安っぽさを感じられる。シャッターを切ったときにカチッと音がしてから、5秒間は処理に待たされ連写できない。110gと軽いが両手で支えにくく、三脚に取り付けられないので手ぶれに気を付ける必要があるが、外見も操作もカメラと変わらないので、撮影を人に頼みやすい気軽さがある。

シンプル操作のカメラ、パソコンをつなぐインターフェイス、撮影画像を補正する簡単な編集ソフト、子供向けのレタッチソフトやスライドショー作成ソフトがバンドルされ、家族向けのデジタルスチルカメラの入門パッケージとして仕上がっている。画質は比較的良好で、屋外での色合いもよい。フラッシュがないので夜間は撮影ができないが、感度がよいので室内撮影はまあ合格点だろう。撮影枚数が少なくても、ホームページに掲載できる画質で撮影可能なスチルカメラとして、ここまでコンパクトさを追求している点はあらためてすごいと感心させられる。(菊地宏明)

DC-20



日本コダック株式会社



03-5488-2390



39,800円



CD-ROMソフトウェアキット、接続用シリアルケーブル(マッキントッシュ用・DOS/V用)、3Vリチウム電池、カメラ用ソフトケース



<http://www.kodakj.co.jp/>

高スペックで普及価格を実現した多機能デジタルカメラ

パワーショット

Power Shot 600

ここがスゴイ!

★★★

- ① 57万画素のCCDを搭載して普及価格を実現
- ② PCカードスロットを装備し、PC用のフラッシュメモリーカードやハードディスクカードがそのまま使える
- ③ 付属のワイドコンバーターで焦点距離が変えられる

Power Shot 600はデジタルスチルカメラのコンパクトタイプでは最上位に位置するランクのカメラである。高解像度、フラッシュ撮影からマクロ撮影まで幅広い対応、優れた拡張性、ドッキングステーションを使ったパソコンとの簡単接続、撮影データの記録など高価格に見合った性能を持つ、価格性能比のよい製品に仕上がっている。

▶ 57万画素のCCDを搭載

基本性能は、このクラス最高の57万画素の1/3インチCCDをベースに、7mm F2.5 (35mmカメラでの50mm相当) の6群6枚レンズで構成される。シャッターはメカニカルで1/30~1/500秒。プログラムAE方式の自動露出。撮影距離は0.1mから無限遠、内蔵ストロボは0.2~3.5mの範囲で連動。自動発光するが、強制発光も可能だ。外部ファインダーは光学式で、シンプルで扱いやすい。マクロ撮影はファインダーの下方についたレンズ位置により、通常のフレームより下方方向にズレが生じる。そのために補正されたマクロ撮影用のフレームもファインダー内に用意されている。マクロでは、10cmまで接近できるので書類などの撮影も十分可能になった。ワイドコンバーターレンズが同梱されており、広角撮影もできる。

また、フラッシュ撮影ではシャッターを切ってから、被写体にカメラ前面のインジケーターで撮影のタイミングを知らせてから、フラッシュがたかれる。このようなコンパクトカメラでは一般的な機能が随所に盛り込まれているのがうれしい。

▶ PCカードで記憶できる。

撮影可能枚数は画像サイズと画質に依存し、サイズが大きいくほど、画質が高いほど画像データは大きくなり、コマ数は減る。内蔵の1Mバイトメモリーでは、通常サイズのときにファインで4枚、ノーマルで9枚、エコノミーで15枚になる。中サイズで順に6、12、19枚となり、小サイズならば17、26、36枚と35mmフィルム程度のコマ数が撮影可能となる。しかし、小旅行で最大36枚では、パソコンを携帯しなければ実用にならないほど少ない。PowerShot 600では、そんな心配は無用だ。内蔵するPCカード (PCMCIA/ATA規格) のType II、III対応スロットにフラッシュメモリーのカードやハードディスクのカードを装着すれば、撮影可能なコマ数が一気に増加する。4Mバイトフラッシュカードを装着したとき、通常サイズで21、38、62枚とな

り、小サイズなら71、104、134枚となる。小サイズならこれで十分だろう。標準サイズで撮影するならば、さらに170Mバイトハードディスクカードを装着すると約800、1500、2500枚と一挙に撮影できる。

▶ 乾電池駆動もOK

電源はリチャージャブルバッテリーで、専用のニッケルカドバッテリーを用いるがバッテリーホルダーを使って単3乾電池6本で駆動できる。さらに、DC10.5Vのジャックも装備しアダプターを介してAC電源も使える。パソコンとの接続もきわめて楽だ。パッケージには「カメラステーションCS-36」を内蔵し、そこからバッテリーの充電を含む電源供給を行い、パソコンとの接続のインターフェースも取っている。ウィンドウズ機へはパラレルで接続され、マッキントッシュとはシリアルで接続される。インターフェイスのコネクタはセントロニクス形式だが、付属ケーブルでマッキントッシュのシリアルポートにつなげるようになっている。あらかじめステーションとパソコンを接続しておけば、カメラをステーションの上ののせ、固定レバーをセットするだけで完了する。

試用レポート

▶ 画像サイズが大きく、くっきりした映像が得られる
画像サイズは通常サイズが832×608と大きい。カメラ側の設定を変更すると640×480 (中)、320×240 (小) になる。撮影画像はJPEGで、イメージを縮小表示したサムネイル画像はTIFFで保存される。24ビットカラーで撮影したときは画像データが大きくなるので適切な圧縮比でデータを圧縮させるが、その圧縮比を3段階 (ファイン、ノーマル、エコノミー) で選択できる。カラー撮影以外にモノクロモードも持っている。これは、カラー用の光学フィルターを外し、信号処理もカラーとは別に行うので高解像度でくっきりとした画像が得られる。書類を撮影するときに使えるモードだ。撮影データや撮影時のコメント音声 (WAVE形式) を記録でき、後で画像補正する際に役立つ。そして、画像を圧縮されたくないときに使うCCD RAWモードも備えているのでプロユースのコンパクト機としても使えるのだ。

(菊地宏明)



128,000円

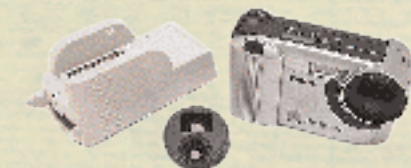


キヤノン販売株式会社



○側面のカバーを開けるとPCカードスロットがある。

○標準サイズで撮影したファインモードの画像 (奥)、ノーマルモード (中)、エコノミー (手前)。質感が乏しくなり、輪郭がぼけてくる。



○筐体は大きい。ドッキングステーションとワイドコンバーターレンズが付属する。

PowerShot 600



キヤノン販売株式会社



043-211-9556



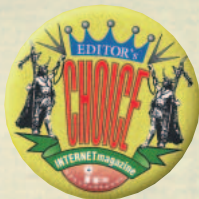
128,000円



カメラステーションCS-36、バッテリーパックNB-6N、バッテリーチャージャーCB-15N、ネックストラップ、ソフトウェア、ワイドコンバーターレンズ



<http://www.canon-sales.co.jp/Product/DCS/ps600.html>



9,800円



イー・アイ・ソフト株式会社



見たいページを自動的にダウンロードしてくれる自動巡回ツール

ウェブワッカー

Web Whacker

ここがスゴイ!

★★★

- ① 見たいホームページをダウンロードしてからオフラインで読めるので、電話代が節約できる
- ② ダウンロードしたページのタイトル一覧が表示され、どのページを見ればいいのか分かりやすい

ダイヤルアップでプロバイダーに接続している人の一番の悩みの種は、やはり接続料金だろう。プロバイダーの利用料金がたとえ固定料金でも、電話代は使った時間だけかかってしまう。毎晩「テレホーダイ」の時間帯まで起きているのもつらいものだ。それならば見たいホームページをハードディスクに保存し、電話を切ったあと中身をじっくり見ればいいが、自分の手でダウンロードするのは面倒。複数のページをダウンロードするならばパソコンの前に座ってクリックしなければならないし、電話代を節約したいときにはやはり深夜に起きていなければならない。今回紹介するウェブワッカー(WebWhacker)は、これらの煩雑な作業を自動的にやってくれるソフトウェアだ。

▶ 登録したページを自動的にダウンロードするソフト
発売元のイー・アイ・ソフト株式会社はこのソフトのことを「インターネット・オート・パイロット・ツール」と呼んでいる。要は複数の見たいページを自動的にユーザーのパソコンのハードディスクに保存してくれるソフトである。

インターネットのホームページは「ハイパーテキスト」になっている。ホームページの文章中には無数のリンクが張られた言葉があり、ユーザーはそれをクリックするだけで他のページに飛ぶことができる。そのため、ダウンロードされた文章の中にリンクがあった場合、そのリンクされたページのデータもダウンロードして見られるようにする機能が必要となる。ウェブワッカーでは基準のページを決めて、そのページからいくつかの階層までダウンロードするかを調節できる。

ネットワークのトラフィックが混んでいるときには、ページからページへと移動する場合にとてつもなく時間がかかったりすることがある。ウェブワッカーであらかじめダウンロードしておけば、取り込んだデータを見るときにはハードディスクからデータを読み出すわけだから、すぐにページの移動ができ、ストレスを感じない。

▶ ページのタイトル一覧がWWWブラウザ上で確認できる

せっかくハードディスクに保存しても、どのページを見ればいいのかかわかりづらいのでは困る。ウェブワッカーならダウンロードしたデータを改めてWWWブラウザを使って見ようとする場合には、見やすいように自動的に階層の状況をHTML形式のテキストに変換し、ユーザーはそれをクリックするだけでハードディスク

クに貯えられたデータを好きな順番で見ることができるので便利だ。

▶ 時間を指定してダウンロードするには「プラス!」が必要

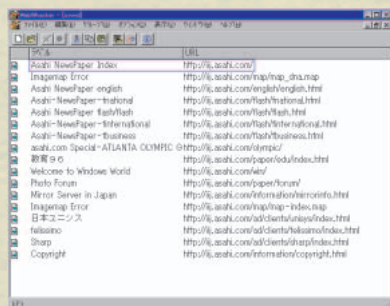
このようなソフトは、やはり早朝など比較的空いている時間帯に混んでいるデータを取り込むような使い方をしてほしい。ただし、ウェブワッカー単体では時間を指定して自動的にダウンロードすることはできない。「マイクロソフトプラス!」に含まれている「システムエージェント」と組み合わせる必要があるのだ。

ウェブワッカーには自動的にウィンドウズ95の「ダイヤルアップネットワーク」を起動し、プロバイダーに電話をかけて接続し、ダウンロードしたあとに切断するためのスクリプトファイルが付いている。これをシステムエージェントで時間を指定して起動するように設定すれば、指定された時刻に自動的にダウンロードできるようになる。この点は少し惜しい。「プラス!」を持っていないユーザーもいるのだから、時間を指定して一連の操作をできるようにするための機能を単体で付けてほしかった。

▶ ダイヤルアップユーザーには必携の自動巡回ツール

このソフトウェアは、新聞社のページなど、毎日定期的に見るページを決めている人に特におすすめできる。夜中の寝ている時間に自動的にダウンロードするようにシステムエージェントを設定しておき、次の日にプロバイダーに接続していない状態でじっくり見る。電話代やプロバイダーの課金を気にせずじっくりとホームページを見ることができるといのは実に気分がいいので、ぜひ試してほしい。

(編集部kataoka@impress.co.jp)



① ウェブワッカーの画面。取り込んだページの一覧が並ぶ。



② いつもネットワークから読んでいたページが自分のパソコンのハードディスクから読み込んでいることが分かる。

WebWhacker for Windows



1.0



イー・アイ・ソフト株式会社



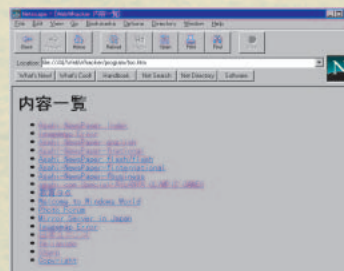
03-3376-7122



9,800円



<http://www.aisoft.co.jp/aisoft/japanese/products/webwhack/webwhack.htm>



③ 取り込んだページはWWWブラウザ上でも見ることができる。

[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp